

12. 完全左脚ブロック症例の心筋 SPECT 像の検討

木村 元政 酒井 邦夫 (新潟大・放)
 石田 均 (立川総合病院・放)
 岡部 正明 松岡 東明 (同・内)

従来、左脚ブロックを有するために心電図上虚血の判定が困難な症例に対して ^{201}Tl 心筋シンチグラフィが行われてきたが、その臨床的有用性については賛否両論があった。今回、最近 3 年間に ^{201}Tl 心筋 SPECT を施行した症例のうち左脚ブロックを有する 25 例(冠動脈造影施行例は 9 例)について、主として負荷方法(運動・薬剤)の差異が及ぼす影響に注目して心筋 SPECT 所見を検討した。運動負荷症例では、心拍数が約 150/分まで増加し、中隔を中心として強い虚血性変化を示した。また、多くの症例で異常所見は下後壁まで及んでいた。ジピリダモール薬剤負荷症例では、心拍数は約 80/分で、虚血性変化が生じても範囲および程度ともに運動負荷に比して軽度であった。左脚ブロック症例では中隔の不協調運動により心筋内冠動脈が圧迫されて冠血流が減少するが、運動負荷症例では、心拍数増加に伴い拡張期が短縮し、より冠血流が減少すると考えられる。

13. ^{123}I -MIBG の使用経験

星 宏治 鈴木 晃 加藤 和夫
 佐藤 勝美 (福島医大・核)
 菅野 仁 奥秋 興寿 (同・がん診)
 佐藤 知矢 星野 俊明 木村 和衛
 (同・放)

^{123}I -MIBG を対象症例に投与し、体内における経時的な摂取率ならびに残存率の変化を求め、検討した。また、症例として各種心疾患および褐色細胞腫例を供覧した。MIBG は、 111 MBq (3 mCi) を静注し低エネルギー用コリメータにて撮像を行った。MIBG の全身における残存率は、4 時間像で 70%、24 時間像で 50% 前後であった。心筋への摂取率は、4 時間像で 3~6%、24 時間像で 1~2% であった。心筋への摂取率の疾患別検討では、DCM と褐色細胞腫例で特に不良であった。

14. $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -HM-PAO 標識白血球スキャンによる感染性骨関節疾患の診断

鐘ヶ江香久子 永尾 一彦 中駄 邦博
 塚本江利子 伊藤 和夫 古館 正従
 (北大・核)
 松野 丈夫 (同・整形)

$^{99\text{m}}\text{Tc}$ -HM-PAO で標識した(平均標識率 $26.7 \pm 7.27\%$)白血球スキャンを骨・関節に感染の疑われた 12 症例に計 16 回施行した。手術、病理所見と比較すると Sensitivity=80%, Specificity=100%, Accuracy=92% であった。

$^{99\text{m}}\text{Tc}$ -HM-PAO 標識白血球スキャンは ^{111}In オキシンなどで標識した他の白血球スキャンに比較し標識が簡便で入手しやすく、しかも感染性骨関節疾患に高い Sensitivity と Specificity をもつと考えられる。

15. 膝蓋骨無腐性壊死の一例

岩窪 昭文 津田 隆俊 久保田昌宏
 森田 和夫 (札幌医大・放)
 射場 浩介 (同・整形)
 若林 淳一 (同・病理診)

16. ^{111}In -chloride ($^{111}\text{InCl}_3$) 骨髄シンチグラフィにおけるびまん性肺集積の意義に関する検討

中駄 邦博 塚本江利子 永尾 一彦
 鐘ヶ江香久子 伊藤 和夫 古館 正従
 (北大・核)

1979 年より 1990 年 7 月まで当施設で $^{111}\text{InCl}_3$ 骨髄シンチグラフィが施行された 271 症例中、11 例にびまん性肺集積が認められた。肺集積の程度は胸骨または軀幹骨髄での RI activity との比較により 0~4(+) に分類された。11 例中 7 例では肺集積に対応する呼吸器系疾患の存在が確認され、その内訳は肺線維症、肺炎、間質性肺炎、および悪性リンパ腫の肺浸潤と真菌症の合併であった。

特に 4(+) の集積を呈した症例は全例、呼吸器系の合併症を伴っていた。また、程度の弱い肺集積は必ずしも病的意義を伴わない場合があることも示唆された。 $^{111}\text{InCl}_3$ 骨髄シンチグラフィで軀幹部骨髄よりも強い肺集積を認めた場合は、びまん性肺疾患の存在を念頭に置